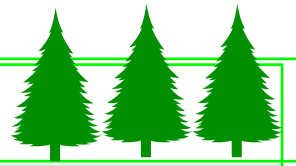




# みつぎ便り



第214号 7月号 令和6年7月1日発行 [http://itbs-ecopo.jp/environsurvey\\_report](http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report)

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です

## オニユリ

オニユリは日本や朝鮮、中国が原産の植物です。寒さや暑さに強いため、日本各地の平地や山間に自生しています。見次公園では一本だけ見事に咲いています。背丈は一〜二呎程度にまで成長し、七〜八月に鮮やかなオレンジ色に黒い斑点がついた花を、下向きに咲かせる姿が印象的です。花びらが後ろに反り返ったような咲き姿や、葉の付け根につくムカゴも特徴的です。

鬼百合<sup>オニユリ</sup>という名前の由来は、大きな花を咲かせることや、オレンジ色の花びらが赤鬼をイメージさせることからつけられました。また、オニユリには天蓋百合<sup>テガイユリ</sup>という別名を持ちます。天蓋とは寺院などで見られる仏具で、この天蓋にオニユリの花が似ていることが由来なのだから。また、オニユリの英語名はタイガリー



リーと言い、花がトラの模様に見えることが由来なのだそうです。

また、オニユリの球根はユリ根と呼ばれ食べることができません。ほくほくした栗のような食感で、優しい甘さが特徴のようです。(千)

## アオダイショウ

五月末にバス通りと高速道路との交差点側の入り口近くの枯れ木の下に人々が集まって騒いでいました。枯れ木に大きなアオダイショウが登っていたのです。釣りの常連さん

によれば、このアオダイショウは十五年ほど前から池中央の中之島に一匹で棲んでいる仲間のいないロンリースネークで、時々泳いで岸まで来ているようです。残念ながら雌雄は分かりません。

アオダイショウは日本固有種で全長は百〜二百<sup>センチ</sup>、胴の太さは直径五<sup>センチ</sup>程の蛇です。各地で大蛇話<sup>オロチ</sup>の主人公になることも多く、中にはニシキヘビ並の話もありますが、大体が冷静に観察しているわけではないので、かなり大袈裟な内容となつているようです。腹面が平らで、角張った脇腹の鱗を引っかけて木や柱などを巧みに登ります。樹上を移動した



り壁をよじ登ることもでき、その習性が他のヘビがいなくなつた都市部でも、本種が生息できる原動力となつています。生活圏に近い環境で見られる蛇の代表です。脱皮しながら成長して二〜三年で大きさは一呎に達します。三〜四年で成熟して、寿命は十年ほどとのこと。蛇の抜け殻を財布に入れておくとお金が貯まるという言い伝えは現代でも残っているようです。

蛇そのものは角川俳句大歳時記には夏の季語として掲載されています。水ゆれて 鳳凰堂へ 蛇の首 (薫)

阿波野青畝